

---

第 388 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2019 年 5 月 30 日(木) 17 時 30 分~19 時 00 分

場 所: 実習館 2 階研究所セミナー室

演 者: 山賀 孝之 氏

(新潟大学医歯学総合病院予防歯科・講師)

タイトル: 高齢者の口腔と全身の関連, 特に咬合状態と生活体力および  
生命予後との関連について

近年, わが国は平均寿命の延伸と少子化により超高齢化社会を迎えているが, それにともなう要介護者の増加もあいまって健康寿命の重要性が叫ばれてきている。健康寿命とは心身の機能を維持し, 自立した生活ができる生存期間のことである。高齢期は健康寿命延伸に必要な全身の様々な機能が低下する時期であり, 口腔機能も例外では無い。それらは相互に関連していると考えられ, 平成 18 年の介護保険法改正にともない, 介護予防において「口腔機能の向上」が項目としてあげられた。さらに, 近年ではオーラルフレイル(口腔機能低下症)という概念が提唱され歯科の診療報酬体系に収載された。これらの保健政策が成立した背景には, これまでに蓄積された口腔と全身の関連についての研究成果によるエビデンスが基にある。

平成 10 年より新潟市において口腔と全身の健康に関する縦断調査(新潟高齢者スタディ)が実施された。これはベースライン時 70 歳の自立高齢者住民 600 名を対象とした前向きコホート調査である。大幅に規模は縮小したもの, 追跡調査は現在も継続中である。新潟スタディからは非常に多くの知見が得られ, 上述のエビデンス構築に多大な貢献をした。

演者は開始時より一貫してこの研究に関わってきました。本セミナーは, その調査全体の概要と, 演者が主体となって分析, 公表を行った以下の内容について, 掘り下げてご説明させていただきたいと思います。

- ・咬合状態の悪化は高齢期に自立した生活をおくるために必要な体力(生活体力)に影響を与えること。

- ・補綴治療が, 咬合悪化の生命予後に対する影響を減弱させるかもしれないこと。

*Matsumoto Dental University  
Graduate School of Oral Medicine*

1780 Gobara, Hirooka, Shiojiri,  
Nagano 399-0781, Japan

略 歴

- 1997年 新潟大学歯学部歯学科卒業
- 2001年 新潟大学大学院歯学研究科修了(予防歯科)
- 2001年 新潟大学歯学部附属病院医員
- 2002年 同 助手
- 2007年 新潟大学医歯学総合病院助教(配置換)
- 2012年 同 講師～現在に至る

担当:硬組織疾患制御再建学講座  
宇田川信之